



TITLE:

京大東アジアセンターニューズレ ター 第567号

AUTHOR(S):

京都大学経済学研究科東アジア経済研究センター

CITATION:

京都大学経済学研究科東アジア経済研究センター. 京大東アジアセン
ターニューズレター 第567号. 京大東アジアセンターニューズレター
2015, 567

ISSUE DATE:

2015-04-27

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/197675>

RIGHT:

2015 年 4 月 27 日発行 第 567 号

CONTENTS

OMA「モンゴル・中国（北京・天津）視察研修旅行」のご案内	2
上海街角インタビュー ㊦	4
読後雑感：2015 年 第 10 回	7
【中国経済最新統計】	16



OMA「モンゴル・中国（北京・天津）視察研修旅行」のご案内

東アジア経済研究センター支援会の皆様へ

支援会法人会員の一般社団法人大阪能率協会（OMA）アジア・中国事業支援室より下記の通りモンゴル・中国視察旅行のご案内《お誘い》が来ています。以前にも何度かお誘いをいただき、何人かの協力会会員方が参加された実績があります。前京大東アジアセンター協力会会長の大森経徳氏（京大経済学研究科・経済学部名誉フェロー）が団長でもあり、ご希望の方はお早めに OMA 後藤事務局長宛お申込み下さい。尚、今回は北京 4 日間（8/26～29）のみの特別コースも準備されていますが、価格がまだ決まっていません。可及限安くする予定とのことです。こちらをご希望の方も、同じく OMA へお申し込みください。（顔写真付パスポートコピーを FAX06-6948-5666 迄お送り下さい。）

編集者 副センター長 劉徳強

平成 27 年 4 月 20 日

OMA「モンゴル・中国（北京・天津）視察研修旅行」のご案内

一般社団法人大阪能率協会（OMA）アジア・中国事業支援室は、これまで中国の沿岸部から内陸部の西安、成都、昆明、青海省、チベットで中国主要各地の視察を終え、ここ 7 年間は、一転してインド・ネパール、ベトナム・カンボジア、中国東北・極東ロシア、インドネシア、ミャンマー・バングラデシュ・タイ、マレーシア・シンガポール・フィリピンと ASEAN 主要国を含むアジア全般の視察をほぼ終了し、昨年はトルコ視察を行いました。そこで本年は、「モンゴル・中国（北京・天津）」を訪問することにいたしました。モンゴルは親日国で白鵬を筆頭に多くの有名力士の出身地として皆さんご存じのことでしょう。しかし、イメージとして草原とゲルを思い浮かべることが出来ますが、遠い国というのが実感だと思います。

今年は、なかなか個人では訪問し難いモンゴルを訪問し、大使館、JICA、モンゴル政府を訪ねてその産業、国情、貿易相手国としての実態について調査することを計画しております。また、雄大なモンゴルを体感できるように草原のゲルに宿泊することも計画しました。

更に、モンゴルからの帰途、北京に立ち寄り変化が見られる日中関係の最近の状況について日本大使館、JETROにて情報収集を行います。また、中国の環境対策の実情や一体化しつつある北京・天津の工業地帯の日系企業訪問、港湾調査も行います。そして、せっかく北京まで行くのですから、万里の長城も勿論行程に入れています。是非、ご参加ください。なお、関空ーウランバートル便（北京経由）は非常に混雑していますので先着順 30 名程度で募集を打ち切る可能性がございますので、早急に参加申し込みをお願いいたします。（なお、利用航空会社であるチャイナエアの規定で、申し込み後キャンセルする場合は約 3 万円の違約金が発生します）

記

日程：2015 年 8 月 24 日（月）－ 8 月 29 日（土）

参加費：249,920 円（二人部屋、サーチャージ・空港税含む、参加者 24 名以上の
場合）

但し、会員外の方は 15,000 円アップ

1 人部屋希望の方は 36,750 円追加

企画旅行社：阪急交通社

申込先：大阪能率協会事務局 後藤事務局長 (oma@crux.ocn.ne.jp)

旅程：

8/24（月） 関西空港 － 北京 － ウランバートル空港 ウランバートル泊
9:00 11:20 15:10 18:30

8/25（火） 在モンゴル日本大使館、JICA、モンゴル産業省訪問
午後、市内観光後、郊外のゲルに移動 テレルジ周辺ゲル泊

8/26（水） バガヌール石炭鉱山見学、ウランバートル市内観光
夕方、北京へ移動 北京泊

8/27（木） 在北京日本大使館、JETRO 北京事務所訪問
午後、高速鉄道で天津に移動し、日系企業(天津工業開発区)、天津港
訪問 北京泊

8/28（金） 北京大野木環境コンサルティング訪問
午後、万里の長城見学 北京泊

8/29（土） 午前中、故宮・天安門広場を見学し、午後の便で関空着（20：30）
（訪問先は現在のところ予定です）

以上

上海街角インタビュー ⑦⑦

社団法人大阪能率協会アジア・中国事業支援室副室長（海外委員）

順利包装集团董事长（在上海）

福喜多技術士事務所所長

福喜多俊夫

「穹頂の下」（ドームの下）を見ましたか？

中国では3月初めに柴静さんという元 CCTV（中国中央テレビ）のレポーターだった人が個人的に作成し、ネットで発信した「穹頂の下」（ドームの下）という大気汚染告発動画が大評判となり1億5千万回以上も視聴された。日本でもテレビで紹介されたので見られた方も多いと思う。柴静さんは動画の中で、自分の子供が生まれながらに肺癌を患ったのは、大気汚染に何ら対策を取らない大手国有企業に原因があると厳しく糾弾している。

この動画は全人代開催前に政府により削除されたが、削除されるまで数日の余裕があり、多くの国民が視聴することが出来た。この動画をすぐに削除しなかったのは、政府の今後の環境対策強化施策に国民の支持を集める効果を狙った意図があるように思う。

さて、上海市民はこの動画を見ただろうか？

1. 20歳代後半の女性

もちろん見ました。友達からも「動画を見たか？」という連絡がいくつも入りました。

動画を見ていると人ごとでなく恐ろしくなりました。

2. 30歳代前半の女性

私は見ていません。友達から連絡を受けてアクセスしたときは既に削除されていました。職場ではしばらくこの話題が出て、みんな環境問題について一層関心をもつようになりました。私は化学品商社に勤めていますが、多くの中小化学品メーカーが政府の指導で廃業させられたのを見えています。でも、大手国有石油あるいは化学会社が一番大量に汚染物質を撒き散らかしているのだから、ここを抑えなければ効果ないですね。

3. 40 歳代中頃の女性

もちろん見ました。動画を作成した柴静さんの息子さんは腫瘍を患って生まれました。そこで彼女は大気汚染が原因だと抗議したわけです。でも、私達は彼女の喫煙にも原因があるのではないかと推測しています。彼女はヘビースモーカーなのです。彼女は CCTV に勤めていた頃は攻撃的なリポーターとして有名でした。私はその頃から彼女の報道は何かを訴えるというより、視聴率を高めることに目的があるのではないかと疑っていました。

今や中国人だけでなく、世界中の人々が中国の環境汚染に関心を持っています。政府も環境対策の法律を強化し、具体的な施策を打ち出しています。でも、これまでの対策は取り締まりのやりやすい民営企業が対象でした。大きな汚染は国有大企業から出されています。今回、彼女が大手国有企業を名指しで糾弾したことは大きな出来事だと思います。

4. 50 歳代前半の男性

微信で見ました。個人でこれだけのものを作ったのは立派だと思います。(多分、環境設備業者などから援助を貰っていると思いますが) 動画が削除になったのは国有石油企業から政府に働きかけがあったと言われているのですが、私は北京冬季オリンピック候補地視察団が来る時期と重なったので、悪イメージを消すためだと思っています。

5. 40 歳代後半の男性

私は動画を見ていません。ネットで話題になったのは知っていましたが。私のまわりの人は殆ど関心がなかったもので、私も特に見ようと思いませんでした。中国人は直接自分に影響が及べば具体的な抗議行動に出ますが、他人の被害には割合冷淡なところがあります。今回の動画に対する反応も一過性に終わってしまうでしょう。

6. 40 歳代前半の男性

もちろん見ました。私は新しい動きが出始めたと思っています。それは中央政府が本気で大手国有企業にも踏み込む意気込みではないかと思っています。習近平主席は石油閥を怖がっていませんから大胆な手を打つのではないのでしょうか。最近、環境部長（大臣）が交代しましたが、新環境部長は共産党員ではなく環境の専門家です。ここにも新しい動きが見られます。柴静さんに環境部長から感謝状が贈られたといううわさもあります。

7. 70 歳代前半の男性

はい、見ました。中国の変化に驚きました。こういう動画が最終的には削除されたとはいえ、かなりの期間自由に見られるようになったのですから。政府も環境汚染に本気で、強力に取り組んでくれるようになるといいのですが。腐敗撲滅と同じくらいの勢いでやって欲しいです。

8. 40 歳代中頃の女性

これまでも私達市民は政府の対策は遅い。大気汚染、水質汚染、食物汚染は自衛で乗り切らないといけないと思ってきました。市民の声は政府に届き難い中で、あの動画はインパクトがあったと思います。世界中の人が見てしまったから、中央政府も環境対策に本気になってくれると信じたいです。

大部分の成人上海市民は柴静さんの「穹頂の下」を見ている。また、その反応もいろいろであるが、彼女が指弾した内容について否定する人はいなかった。多くの中国人が現状の環境汚染に危機感を持ち、政府の対策を待っている。しかし、動画の中で、地方政府の役人や国有企業の幹部が「それじゃ雇用はどうするつもりだ」と叫んでいるのも、ある面事実であろう。しかし、このジレンマに悩み手をこまねいていると、我々が経験したように大きな負債を後世にまで負わせることになる。

以上

読後雑感：2015年 第10回

27. APR. 15

アジア・アパレルものづくりネットワーク代表理事

株式会社小島衣料オーナー

東アジアセンター外部研究員

小島正憲

1. 「いのちの水をバングラデシュに」
2. 「プノンペンの奇跡」
3. 「ケアのカリスマたち」
4. 「人間ドックの9割は間違い」
5. 「歯は磨かないでください」
6. 「なぜ、マーガリンは体に悪いのか？」
7. 「医師と僧侶が語る 死と闘わない生き方」
8. 「食べない、死なない、争わない」
9. 「心身をデトックスする半断食」

1. 「いのちの水をバングラデシュに」 川原一之著 SAIKI 2015年3月30日

副題： 「砒素がくれた贈りもの」

かなり以前、バングラデシュの地下水から砒素が検出され、大きな問題となったことがあった。この本は、バングラデシュの地下水砒素汚染の解決に取り組んだ多くの日本人たちの貴重な奮闘体験をまとめた記録集である。ただし、著者の川西氏が、「バングラデシュの砒素汚染対策プロジェクトはまだまだ未完、若い世代の参加を得て完結するには、さらに長い歳月がかかるに違いない。私が砒素と付き合ってきた45年間の経験が役に立つならば、これからのプロジェクトにも参加していきたい」と、書いているように、バングラデシュの砒素汚染は未完であり、その意味で、この本は中間報告のようなものである。

川原氏は、それでもこの砒素汚染プロジェクトは、大きな副産物を生み出したとして、「プロジェクトに参加した者たちは、“悪魔の水”と呼ばれるほど汚かったデルタの地下水に替わる飲み水を求めた結果、砂利と砂のフィルターで濾過してつくるおいしくて健康にいい水にゆきついた。その水は、砒素汚染を克服するための困難な活動から生まれた。まさしく“いのちの水”だった。毒物砒素の汚染がなければ、このプロジェクトは形成されず、“いのちの水”がベンガルの大地に届けられることもなかったのである」と書いて

いる。

なお、バングラデシュの地下水の砒素汚染は、工場の排水などによるものではなく、ヒマラヤ山脈に源流を持つ大河が数千年をかけて形成してきた結果であるという。それだけに一朝一夕では解決できないようである。

2. 「プノンペンの奇跡」 鈴木康次郎・桑島京子共著 SAIKI 2015年3月31日

副題 : 「世界を驚かせたカンボジアの水道改革」

本書も前著に続き、国際協力機構（JICA）や北九州市水道局の若手日本人が、荒廃したプノンペンの水道事業を立

て直していく過程を描いたものであり、いわば JICA の宣伝出版物のような本である。しかし、「はしがき」で JICA の畝所長が、「このサクセス・ストーリーから、私たち日本人も多くを学ぶことができます。人材の育成、やる気の引き出し方、仕事の管理の工夫や、さまざまな意志決定者への巧みなどはたらきかけ。そして、改革、革新（イノベーション）。そこには、開発事業に限定されない、普遍的なマネジメントのヒントが多く示されています」と、書いているように、ビジネス関係者にも学ぶところの多い本である。

ことにこの事業のカンボジア側の中心になって働いた人物＝エク・ソンチャン水道局長が奮闘する姿は、感動的でもある。そのエク・ソンチャン氏については、「若きころ、ポル・ポトから直接、フランス語を学んだことがあること、彼の父親はクメール・ルージュの軍人幹部（後に、ポル・ポト派により処刑）であったこと、彼はポル・ポト政権が誕生したとき25歳であり、無学を装って石をたたいたり酒を造ったりする労働者として働いたこと」、などの経歴が書かれ、「ポル・ポト時代を生き抜いてきたカンボジアの知識人の数奇な運命の物語がここにある」と紹介されている。そして彼自身に、「当時の私にとって、“死ぬこと”はたいした問題ではなかった。“死ぬ”ことはどうでもよく、ただひたすら“自由”を強く欲していました。自由であることのありがたさ、大切さ、それを心の底から欲していたのです」と言わしめている。このようなカンボジア人との出会いが、この事業を成功に導いたのであろう。なお、鈴木康次郎氏は、「あとがき」で、「それぞれの関係者によるポル・ポト時代のお話をお聞きする際には、本人もこちら側も涙なしには聞き取ることができなかった。今回は、紙面の都合もあり、語っていただいたさまざまなドラマをほとんど割愛せざるを得なかったのは大変僥倖難かったところである」と書いている。ぜひ、できるだけ早く、その割愛された部分を公開してもらいたいものである。

エク・ソンチャン氏の手腕については、「対内的には組織の活性化に力を注いだ。やる気のある若手人材を責任ある職務に登用し、新しい組織文化を創り始めていた。その際、彼が人事評価・待遇の基本としたのは能力主義であり、個々人の能力を最大限に発揮させるべく“アメ”と“ムチ”を見事に使い分けた」と書いている。

北九州市の国際協力についても、「北九州市の上下水道局では、カンボジアだけでなく、ベトナムや中国の水道事業にも支援を広げています。2010年、“北九州市海外水ビジネス推進協議会”が設立されました。約140社の会員企業からなる組織であり、同局がカンボジアをはじめとする国々で開拓したルートを通じて、日本の水道技術の輸出に取り組み始めています。北九州市上下水道局が国際支援を通じて培ってきた各国との信頼は、民間事業のビジネスチャンスとしても開花しようとしています」と書かれている。環境保全技術が重要な現代に、この試みは極めて貴重である。

3. 「ケアのカリスマたち」 上野千鶴子著 亜紀書房 2015年3月31日

副題： 「看取りを支えるプロフェッショナル」

帯の言葉： 「これで“おひとりさま”でも、家で死ねる」

本書は、かつて女性闘士として名を馳せた上野千鶴子氏の著作なので、「死への積極策」が書き込まれていると思い、勢い込んで読んでみたが、残念ながら、新時代を切り開くような斬新な思想は何も語られていなかった。上野氏は「あとがき」で、「このところ同世代や年少の友人の訃報が相次ぐようになりました。親や教師の訃報のときには感じなかった衝撃があります。だれでもいつかは死亡率100%。おひとりさまのわたしはどんな死に方をするのだろう……と考えるようになりました。高齢社会の死はゆっくり死。ぴんぴんころりというわけには、いきません。家族がおらず、病院にも施設にも入りたくないわたしは、在宅でどうやって死なせてもらえるのだろうか、と」などと、情けないことを言っている。また上野氏は、「超高齢社会の老いとは、前人未踏の新しい経験です。現場はつねに動いています。わたしの探究は終わりません」と書いている。上野氏には、かつてのように勇ましく、かつ格好よく死を探究し、理想の死に切り込み、実践してもらいたいと願う。ぜひ、「新・姥捨て山」思想を確立してもらいたいと願う。なお上野氏は、「団塊世代が一齐に後期高齢者になり日本が超高齢社会となるのが2025年ですが」と書き、このとき日本に「2025年問題」が大爆発するという。

以下に本書から、私が参考になったと思う個所を抜き書きしておく。中には、かつての過激な上野氏を彷彿とさせる主張もある。

・死亡数が最大に達するピーク時に、病院にも施設にも「死に場所」を求めることができない「看取り難民」が47万人生まれる、と予測されています。その高齢者には、「ほぼ在宅、ときどき病院」で過ごしてもらおうというのが、政府の目論見ですが、その高齢者の在宅には、すでに家族介護力がないことを覚悟しなければならないでしょう。それなら「おひとりさま」は、どこでどうやって死んだらいいのでしょうか？

・最近も、「在宅ひとり死」という言葉を冠したシンポジウムをおこないましたが、500人の定員があつというまに埋まりました。これは潜在ニーズが非常に大きいということを示していると思います。

・このところ都内で、「在宅ひとり死準備セミナー」を何回か連続で開催していますが、おかげさまで大盛況です。出席者は60～80代の女性が大半なのですが、たとえば、「死に際になって家族に枕元を囲んでほしいですか？」と尋ねても、ほとんどは「いいえ」です。希望する最期の迎え方は様変わりしているのです。

・わたしは一定の年齢になったら「家族は解散したほうがいい」と言い続けてきました。

・人間は死を受け入れるまでと、死を受け入れてからではまったく違うと思っています。実は、すでに死を受け入れた人の持つ孤独というのは、あまりないんじゃないかと思っています。死を受け入れる前まではさびしくて心細いと思いますが、その先までいくと、本当はわしたち看取り士のようなものは必要ではなくなるんじゃないか。そう感じています。

4. 「人間ドックの9割は間違い」 牧田善二著 幻冬舎新書 2015年3月20日

帯の言葉 : 「なぜ、がんは“手遅れ”が多いのか。じつは全身CT、胃と腸のカメラ、脳MRIだけが大事」

私は毎年、なんの疑いもなく人間ドックを受診しているだけに、本書の題名はショッキングなものだった。しかし本書の内容はその題名とはかなり相違しており、人間ドック不要を主張しているものではなく、受診者にその内容を吟味し、取捨選択や加味を勧めているものであり、私には多いに参考になった。私も今年からは、受診内容を変更してみようと思っている。

牧田氏は、まず「基本的な血液検査や尿検査は、毎年受ける価値があります」と書き、続けて「人間ドックを受ける人が、人間ドックに求めているものは、がんをはじめとした、すぐに命に関わる病気の早期発見ですよね」書いている。その上で、「①胸部エックス線検査＝効果ほとんどなし・被爆あ

り、②胃バリウム検査＝効果ほとんどなし・被爆かなりあり、③腹部超音波（エコー）検査＝効果は少ない・害なし、④便潜血検査＝効果は少ない・害なし」と説いている。そして「⑤首から下腹部まで CT で輪切りにして見る、⑥胃と腸は内視鏡（カメラ）で粘膜を直接見る、⑦60歳を越えた男性は PSA を必ず受ける、⑧女性は子宮頸がん細胞診を毎年受ける、⑨脳は専門機関で“MRI”による検査を受ける、⑩PET 検査はもう古い」などを勧めている。

たしかに私も数年前から、胃のバリウム検査はやめている。なぜなら必ずバリウム検査結果で、胃カメラでの精密検査を指摘されるので、それならば最初から胃カメラにして、胃バリウム検査をパスすることにしたからである。牧田氏は本書で、胃バリウム検査は不正確であり意味がないと指摘している。私も実体験上、この主張に同感である。牧田氏は、現在

多くの日本人が真面目に受診している現行の人間ドックの有効性に疑問を呈し、多くの病院のカネ儲け主義を批判している。

5. 「歯は磨かないでください」 豊山とえ子著 廣済堂健康人新書 2015年4月4日

副題 : 「歯周病を治すと、全身が健康になる」

帯の言葉 : 「口内の菌を除いて、病気を防ぐ！」

本書の「はじめに」で、著者の豊山氏は、「本のタイトルを見てびっくりされた方も多いでしょうが、タイトル通り、“歯を磨く”のではなく、“歯についているバイ菌を取り除く”ことが、歯のケアの原点であり、大事な事なのです」と書いている。つまり豊山氏は、この本で「上手な歯磨きの方法」を伝授しているのであり、歯磨きを否定しているのではない。若い人や子育て中の人は、この本を読み、上手な歯磨き方法を学んだ方がよいと思う。私のような高齢者は、手遅れなような気もするが、口臭で他人に迷惑をかけてはいけないので、少しはやってみようかと思っている。

6. 「なぜ、マーガリンは体に悪いのか？」 山田豊文著 廣済堂健康人新書 2015年4月4日

副題 : 「“栄養学後進国”ニッポンの危険すぎる食卓」

帯の言葉 : 「トランス脂肪酸は病気を招く」

本書で山田氏はまず、「トランス脂肪が人間の細胞すべてに対してあらゆる面からダメージをもたらす」から、「今すぐ冷蔵庫を開けて、マーガリンがあったら捨ててほしい。マーガリンは、猛毒のトランス脂肪を朝から摂取してしまう原因だからだ」と書き、マーガリンの弊害を詳細に書き込んでいる。

また薬について、日本薬剤師会会長の児玉孝氏の言葉を引用し、「現代の西

洋医学におけるクスリというのは、人工的に作られた化学合成物質であるから、体の中にはもともと存在しないものであり、“毒”と言ってもいい。できれば飲まないほうが良い」と書いている。この薬の弊害について、私には論評する力はない。しかし3～4月にかけて、薬の弊害を訴えた書物が大量に発刊されているので、次回にでも、それらを紹介したいと思っている。

さらに、「諸外国はジャンクフードを規制している」、「輸入肉はホルモン漬けになっている」、「“白い炭水化物”でビタミン・ミネラルが枯渇する」、「砂糖はもっとも危険な“甘いドラッグ”」、「牛乳は、人間にとって“悪魔の白濁液”である」、「服に染み付いた柔軟剤の芳香成分で気分が悪くなる。周囲の人に化学物質過敏症をもたらす危険性がある」、「インフルエンザのワクチンや薬も細胞の環境を破壊する」、「糖尿病の新治療薬にさまざまな副作用が」、「パンケーキや歯磨き粉にもある、身近に潜む有害ミネラル」、「有害ミネラルの“複合汚染”が人殺しを招く」など書いている。いずれもにわかには信じがたい主張だが、「砂糖は……」については、私は甘党であり、その習慣性が危険ドラッグに似ていると言われることは理解できる。ただし、「牛乳は……」については、あまりにも過激な主張だけに、すぐにそれを信じて実践するという気にはならない。

山田氏は現代人の健康増進のために、「①きれいな水、②新鮮な空気、③光、④自然の良質な食べ物、⑤機能的な栄養、⑥運動、⑦休息、⑧ポジティブな心、⑨断食」を提言している。ことに断食に関しては、「断食は対症療法としての投薬治療などとは全くことなる“母なる自然の中にある手術台”であると同時に、“人間本来の治癒力を高める手段”でもある。実際、現代医療とは一線を画するアプローチとして、最近は国際的に期待されている」と書いている。この主張には、私も同意する。ちょうど私も、断食の実践体験を積み重ね、糖尿病などの克服を目指し、断食往生への道を切り開き、新たな思想を作り上げようと考えているところだからである。

7. 「医師と僧侶が語る 死と闘わない生き方」 玄侑宗久・土橋重隆共著 ディスカヴァー携書 2015年2月25日

帯の言葉 : 「芥川賞作家の禅僧とガン医療の第一人者が語り尽くす！」

本書で玄侑・土橋両氏は、現代人のガンに対する処し方を徹底的に論じている。土橋氏はガンを、「ガンになることで、ある程度、時間の余裕ができますね？ 脳血管症などとは違って、最低でも数か月とか数年という余裕があります。自分の生き方を見つめ直す、更生する時間が用意されているわけで

す」、「実際、放っておいてもガンはすぐには大きくなりません。“がんもどき”ではない本物のガンでも、一拍置くくらいの余裕は十分にあります。ですから“告知されたらまず立ち止まる”ことが大事なんです」、「ガンが治る人は、上手にガンというものとつきあっていて、いろいろ大変なことがあっても、最終的には自分の味方になっている。次の人生のプラスに変えているんです」、「ガンとは闘ってはいけない」などと肯定的に語っている。私もこの主張に同感である。

続けて土橋氏は、「ガンのマーケットはすごくいいマーケットなんです。昔は抗生剤のメーカーがよく儲かったんですけど、いまは抗がん剤の方がはるかに大きいと思いますね。ものすごくビジネス的には発展している。だからガンがなくなったら医療界や製薬業界が困る。こういう人たちにとっては簡単に治っちゃたらダメという面もある。医者にしても、ほとんどの場合、治らないという前提で抗ガン剤を使っていますしね」、「こういう話をすると嫌がる人が多いんですが、医療の背後には、国や厚労省、それを支える製薬メーカー、さらには国際的なオイルビジネスと、利益を循環させ“山分けするシステム”が存在しています」と医療界の裏側を暴き、同時に医師の資質に対しても、「結局、入学試験で医者になっていくだけで、医者として適性があるかどうかのチェックが何もない。試験は暗記力の勝負ですからね、医学部に入ったとしても、実際は暗記力だけなんですよね」と辛辣なことを述べている。

これに対して玄侑は、「医学というのは、勘とか直感的なものがもっと働くべき世界だと思う」と言い、土橋氏は、「病気は悪いものだという視点から離れると、いろいろなとらえ方ができるようになる」と話している。

8. 「食べない、死なない、争わない」 稲葉耶季著 マキノ出版 2015年4月21日

副題：「人生はすべて思いどおりー伝説の元裁判官の生きる知恵」

帯の言葉：「これぞまさに知性と霊性の統合です」

稲葉氏の本書での、「食べないほうが幸せ」・「水も飲まないで生き続ける」・「呼吸さえしないで一定期間過ごせる人もいる」などという主張を、私は無条件で信じることはできない。しかし現代科学が行き詰まり、現代医学にカネ儲け主義が蔓延し、社会に半病人や超高齢者が溢れかえっている状態を見るとき、この本から学ぼうとすることも必要かと思う。

稲葉氏は本書の「食べない」の章で、「不食で飢餓をなくせるか」と問いを發し、「将来的に“人は条件さえ整えば食べ物をとらなくても生きていける”

ということが普通に語られ、信じられるようになったときには、本当に飢餓の根本的な解決につながるのかもしれませんが。一方、餓死が存在するのは、“ものを食べないと死んでしまう”という思い込みや恐怖が、食べない人を死に至らしめるからだ、という意見もあります」と、書いている。現代日本は飽食の社会といわれ、一般には餓死はないが、この「不食のススメ」の発想はおもしろいと、私は思う。私の今後の実践的研究課題となり得る。

稲葉氏は本書の「死なない」の章で、「人には、安らかに死ぬ権利があります。向こうの世界に旅立とうとする人に対して、看取る人々ができるのは、安らかに、ただ安らかにと願って静かに送り出すことです」、「いままきに向こうの世界に移ろうかとしている人を苦しめることになる、現在の終末期医療のあり方について、みんなで真剣に考えるときが来ているように思います」と書き、「姥捨て伝説は、よく悲惨な話として語られます。しかし、年老いた者が旅立つときを自ら決めることは、決して悲劇ではないと私は思います。老人たちは見捨てられたのではなく、自ら死を受け入れ、潔く山に向かったのです。ちなみに“檜山節考”に描かれた“おりん”には、肝臓ガンを患い、自らの意志で逝くために絶食をしていた深沢七郎の実母の生き様が反映されているそうです」と続けて書いている。私もこの主張には、賛成である。超高齢者は、今こそ、真剣に「自らの死に方」を考え実践しなければならないのであり、一般社会は、その選択結果を受け入れる準備を整えなければならないのである。

稲葉氏は本書の「争わない」の章で、「日本が武装しないでいて、他国が攻めてきたら、最初は一定数の人が殺されるでしょう。それはさけられません。しかし、それでも相手を殺さない。それこそが大切です。そうすれば、少なくとも反撃したときよりは、全体の死者が少なくてすみます。戦いの続く期間が短くてすみます。あとは必ず冷静に話し合うチャンスがやってきます。そういうやり方で、死者と苦しむ人を最小限に抑えるのが現実的な策です」、「もしも日本がいま述べているような事態になったら、私はその最初の一定数の一人に、進んでなりましょう」と書いている。この稲葉氏のこの主張は、従来から私が唱えている「老人決死隊」に通じるものであり、全面的に同意する。また私も、「最初の一定数の一人」に喜んでなる決意である。

9. 「心身をデトックスする半断食」 力石康彦著 現代書林 2015年4月16日

副題 : 「一万人が実践した少食健康法」

帯の言葉 : 「代謝がアップ! ストレスも解消!」

著者の力石氏は、神奈川県湯河原町で「半断食」施設を開いている。本書は、その施設での一万人を越える半断食の経験を力石氏がまとめたものであり、体験者のレポート集でもある。なお私は本書を読んで、体験者の年齢が若いことと、60代以降の高齢者のレポートが少ないことに驚いた。考えてみれば、私もヨガ断食を体験したのは30代であった。しかし70代に近くなって、再び、断食に挑戦しようと考えている。このような老人は例外なのかもしれない。なお、力石氏は、「以下に該当する方は、半断食を行っても改善効果は見られないばかりか、かえって健康を害する可能性がある」と書き、「80歳以上の高齢者（体力・体調の良好な方はこの限りではありません）」と、超高齢者には判断時期を禁忌としている。

力石氏は、「半断食は、心身を一時的に休ませることで、細胞レベルで修復・再生・活性化を図り、短期間のうちに驚くほど健康になれる驚異の健康法です」、「また半断食は期間中は、日常の喧噪から一歩離れることで、ご自身と正面から向き合い、生活習慣などの見直しや、人生の方向性を探れる絶好の機会となります」と書いている。また「健康を維持したいとか健康になりたいときは、他動的に行われるものではなく、自発的に健康法を実践するのが基本です」、「半断食の行為そのものを信じご自身の治癒力を信じているかどうかということが原因となって、結果に差が生じるもののようです」とも書いている。

また力石氏は、「動脈硬化などの生活習慣病のリスクを減らしながら、病気にならない体質づくりを比較的短期間でできる半断食は、生活習慣病予備軍の方々には最上の健康法と言えるでしょう」と主張している。つまり力石氏は、「半断食は、私を含めて生活習慣病に悩む現代人にとっての、究極の健康法だ」と言っているのである。もちろんそれは理解できる。しかし私は長寿のための健康法として半断食に興味を持っているわけではない。断食往生への一手段として、半断食を見ているのである。このような見方をする高齢者が増えれば、おそらく力石氏の施設は、超高齢者で満杯になるだろう。私は今、できるだけ早期に、この施設に行き、半断食を体験したいと思っている。

以上

【中国経済最新統計】

	① 実 質 GDP 増加率 (%)	② 工 業 付 加 価 値 増 加 率 (%)	③ 消費財 小売総 額増加 率(%)	④ 消費者 物価指 数上昇 率(%)	⑤ 都市固 定資産 投資増 加 率 (%)	⑥ 貿易収 支 (億ドル)	⑦ 輸 出 増加率 (%)	⑧ 輸 入 増加率 (%)	⑨ 外国直 接投資 件数の 増加率 (%)	⑩ 外国直 接投資 金額増 加率 (%)	⑪ 貨幣供 給量増 加 率 M2(%)	⑫ 人民元 貸出残 高増加 率(%)
2005年	10.4		12.9	1.8	27.2	1020	28.4	17.6	0.8	▲0.5	17.6	9.3
2006年	11.6		13.7	1.5	24.3	1775	27.2	19.9	▲5.7	4.5	15.7	15.7
2007年	13.0	18.5	16.8	4.8	25.8	2618	25.7	20.8	▲8.7	18.7	16.7	16.1
2008年	9.0	12.9	21.6	5.9	26.1	2955	17.2	18.5	▲27.4	23.6	17.8	15.9
2009年	9.1	11.0	15.5	▲0.7	31.0	1961	▲15.9	▲11.3	▲14.9	▲16.9	27.6	31.7
2010年	10.3	15.7	18.4	3.3	24.5	1831	31.3	38.7	16.9	17.4	19.7	19.8
2011年	9.2	13.9	17.1	5.4	24.0	1549	20.3	24.9	1.1	9.7	13.6	14.3
2012年	7.7	10.0	14.3	2.7	20.7	2303	7.9	4.3	▲10.1	▲3.7	13.8	15.0
2013年	7.7	9.7	11.4	2.6								14.1
2月				3.2		153	21.7	-14.9	-35.6	6.3	15.2	15.1
3月	7.7	8.9	12.6	2.1	21.5	-9	10.0	14.2	-19.7	5.7	15.7	14.9
4月		9.3	12.8	2.4	19.8	182	14.6	16.6	13.9	0.4	16.1	14.9
5月		9.2	12.9	2.1	19.7	204	0.9	-0.1	-14.4	0.3	15.8	14.5
6月	7.5	8.9	13.3	2.7	19.9	271	-3.3	-0.9	-17.3	20.1	14.0	14.1
7月		9.7	13.2	2.7	20.2	178	5.1	10.8	1.2	24.1	14.5	14.3
8月		10.4	13.4	2.6	21.4	285	7.1	7.1	-11.7	0.6	14.7	14.1
9月	7.8	10.2	13.3	3.1	19.6	152	-0.4	7.4	-16.8	4.9	14.2	14.3
10月		10.3	13.3	3.2	19.2	311	5.6	7.5	-8.2	1.2	14.3	14.1
11月		10.0	13.7	3.0	17.6	338	12.7	5.4	-9.3	2.3	14.2	14.2
12月	7.7	9.7	13.6	2.5	17.2	256	4.3	8.6	-3.4	-42.6	13.6	14.1
2014年												
1月				2.5	19.8	319	10.5	10.8	-8.6	-4.5	13.2	14.3
2月				2.0		-230	-18.1	10.4	1.3	4.0	13.3	14.2
3月	7.4	8.8	12.2	2.4	17.3	77	-6.6	-11.3	6.1	-1.5	12.1	13.9
4月		8.7	11.9	1.8	16.6	185	0.8	0.7	0.5	3.4	13.2	13.7
5月		8.8	12.5	2.5	16.9	359	7.0	-1.7	8.4	-6.6	13.4	13.9
6月	7.5	9.2	12.4	2.3	17.9	316	7.2	5.5	10.3	0.2	14.7	14.0
7月		9.0	12.2	2.3	15.6	473	14.5	-1.5	14.0	-17.0	13.5	13.4
8月		6.9	11.9	2.0	13.3	498	9.4	-2.1	5.2	-14.0	12.8	13.3
9月	7.3	8.0	11.6	1.6	11.5	310	15.1	7.2	9.4	1.9	11.6	13.2
10月		7.7	11.5	1.6	13.9	454	11.6	4.6	8.7	1.3	12.1	13.2
11月		7.2	11.7	1.4	13.4	545	4.7	-6.7	-8.6	22.2	12.0	13.4
12月	7.3	7.9	11.9	1.5	12.6	496	9.5	-2.3	6.1	10.3	11.0	13.6
2015年												
1月				0.8		600	-3.3	-20.0	2.2	-1.1	10.6	14.3
2月				1.4		606	48.3	-20.8	49.8	0.1	11.1	14.7
3月	7.0	5.6	10.2	1.4	13.1	31	-15.0	-12.9	0.3	1.3	9.9	14.7

注：1. ①「実質 GDP 増加率」は前年同期（四半期）比、その他の増加率はいずれも前年同月比である。

2. 中国では、旧正月休みは年によって月が変わるため、1月と2月の前年同月比は比較できない場合があるので注意されたい。また、（ ）内の数字は1月から当該月までの合計の前年同期に対する増加率を示している。

3. ③「消費財小売総額」は中国における「社会消費財小売総額」、④「消費者物価指数」は「住民消費価格指数」に対応している。⑤「都市固定資産投資」は全国総投資額の86%（2007年）を占めている。⑥—⑧はいずれもモノの貿易である。⑨と⑩は実施ベースである。

出所：①—⑤は国家统计局統計、⑥⑦⑧は海関統計、⑨⑩は商務部統計、⑪⑫は中国人民銀行統計による。